

# 私の履歴書

前橋 汀子

ソ連、米国、スイスと拠点を変えながら、私の海外生活は20年近くに及んでいた。1970年代後半から、帰国して日本を拠点に活動しようとの思いが強くなっていった。

実際、日本での仕事が増えていた。78年にはカネボウ化粧品品のCMキャラクターに起用された。

## コンサート 毎年欠かさず

### アルバム発売 映画出演も

79年夏にはNHK交響楽団と一緒に中国やフィリピン、タイ、マレーシア、インドネシアなどを1カ月かけて回るアジアツアーに出る。ピアノのソリストは内田光子さんで、バイオリンのソリストが私だった。私は岩城宏之さんの指揮でチャイコフスキーのバイオリンコンチェルト、外

服を着て歩くという3つのシーンだけの出演だった。82年のNHK紅白歌合戦ではゲスト審査員を務めた。サンオールスターズや松田聖子さんが登場するたびに大はしゃぎする脚本家の橋田寿賀子さん、微動だにしない市川猿之助（現猿翁）さんという対照的なお二人に挟まれた席で、楽しい時間だった。

映画にも出演した。田中康夫さんのベストセラーを原作にした81年公開の「なんとなく、クリスタル」（松原信吾監督）だ。かとうかず子さん演じる若い女の子から「私も年を取ったらあんな女性になりたい」と憧れられる役だった。私はそういう年齢になってきたのだ。せりふはなく、店先でネクタイを選ぶ、シャネルのスーツを着て歩く、和

あるテレビ番組の企画で、来日したフランスのシャンソン歌手ジュリエット・グレコと対談する機会があった。自分がいとも黒ずくめの衣装で歌っているのは「主役は音楽であって、私は黒子だから」とグレコは言った。

私は「ステージで演奏する時は、服も曲の一部だと思っています。だから私はいつも衣装を数着持ってコンサートに出かけ、ステージの壁の色や照明なども考えて着る服を選ぶ。それも楽しみなのです」と持論を展開した。大スターのグレコと真っ向から意見が対立し、お互いに譲らず、それはそれで面白かった。

レコーディングにとっても慎重だった私は83年、ついにデビューアルバム「チゴイネルワイゼン」を当時のCBS・ソニーから発表した。ジャケッット写真を撮影したのは写真家篠山紀信さん。第2、第3作のジャケットも撮ってくれた。現在に至るまで、コンサートのパスターやチラシの写実はすべて篠山さんにお願



デビューアルバムの「チゴイネルワイゼン」  
この時期は「バッハ 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ全集」(88年)をはじめ、世界的なピアノでもあり、私は彼のピアノでベートーベンとモーツァルトのバイオリンソナタ集も録音している。

第2作「亜麻色の髪の乙女」は妹の前橋由子がピアノ伴奏をした思い出の1枚だ。第3作「チャイコフスキー&メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲」で指揮をして